

# 群馬県スポーツ推進計画（仮称）

## 素案

群馬県







# 目 次

第1章	計画策定の基本的な考え方	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画の期間	1
4	計画の推進	2
5	この計画におけるスポーツとは	2
第2章	群馬県のスポーツの現状	3
1	少子・高齢社会の進展	3
2	地域のつながりの希薄化	4
3	障害者スポーツへの関心の高まり	4
4	スポーツへの新たな関心の高まり	4
第3章	群馬県が目指す姿	5
1	基本理念	5
2	施策の方向	6
3	基本施策	7
1	スポーツに親しむ機会の確保	7
2	競技力の向上	11
3	子どものスポーツ機会の充実	16
4	スポーツ環境の整備	22
5	障害者スポーツの支援	26
6	生涯スポーツの推進	29
4	達成目標一覧	37
第4章	資料編	39
1	群馬県スポーツ推進審議会委員名簿	39
2	「群馬県スポーツ推進計画」策定の経緯	40
3	群馬県スポーツ振興条例	41
4	「スポーツ県群馬」宣言	44
5	競技別拠点スポーツ施設一覧 (群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画から)	45

# 第1章 計画策定の基本的な考え方

## 1 計画策定の趣旨

本県では、昭和53年に「スポーツ県群馬」宣言を行い、翌年度から平成22年度までの間に5次にわたるスポーツプランを策定し、現行の6次計画である「ぐんまスポーツプラン<sup>にいまるいちいち</sup>2011」によりスポーツ振興に取り組んできました。

また、国では、スポーツ基本法が制定され、同法に基づき策定されたスポーツ基本計画は、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置付けられ、これに基づきスポーツ施策が推進されています。平成25年9月には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、平成27年10月にはスポーツ庁が発足して、スポーツ立国に向けた動きが加速しています。

本県では、平成25年4月には、「優れたスポーツ選手を育てるとともに、県民が生涯にわたり、いつでも、どこでもスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができるよう、スポーツ環境の整備に努め、スポーツによる明るく豊かな県民生活の実現」を目指して、群馬県スポーツ振興条例を施行しました。

同時に、総合的にスポーツ行政を行うための組織として、知事部局の生活文化スポーツ部にスポーツ振興課を設置しました。

この群馬県スポーツ推進計画は、現行の「スポーツプラン2011」を全面的に見直し、スポーツ基本法や群馬県スポーツ振興条例の趣旨を踏まえて、新たに策定するものです。

## 2 計画の位置付け

この計画は、本県のスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための、スポーツ基本法第10条第1項に定める地方スポーツ推進計画です。

また、群馬県総合計画に基づく群馬県のスポーツ分野における最上位計画です。

## 3 計画の期間

平成28年度（2016）から平成32年度（2020）までの5年間とします。

## 4 計画の推進

(1) スポーツ行政の総合的・計画的な推進

県庁内関係課、関係団体等と連携して、計画に掲げている施策の進捗状況を点検・評価し、部局横断的な課題の調整等を行うなど、総合的・計画的に取り組みます。

(2) スポーツ団体との連携

スポーツの推進に重要な役割を担う公益財団法人群馬県スポーツ協会、群馬県障害者スポーツ協会、群馬県レクリエーション協会等との連携を強化して推進します。

(3) 計画推進のための多様な財源確保

様々な資金確保のために、スポーツ振興くじの助成制度やネーミングライツの活用など、民間資金の活用にも努めます。

(4) 情報提供

この計画を着実に実施するため、市町村や関係団体等に対する周知を徹底します。また、施策の実施状況について、県の広報媒体を活用して、随時、情報提供します。

## 5 この計画におけるスポーツとは

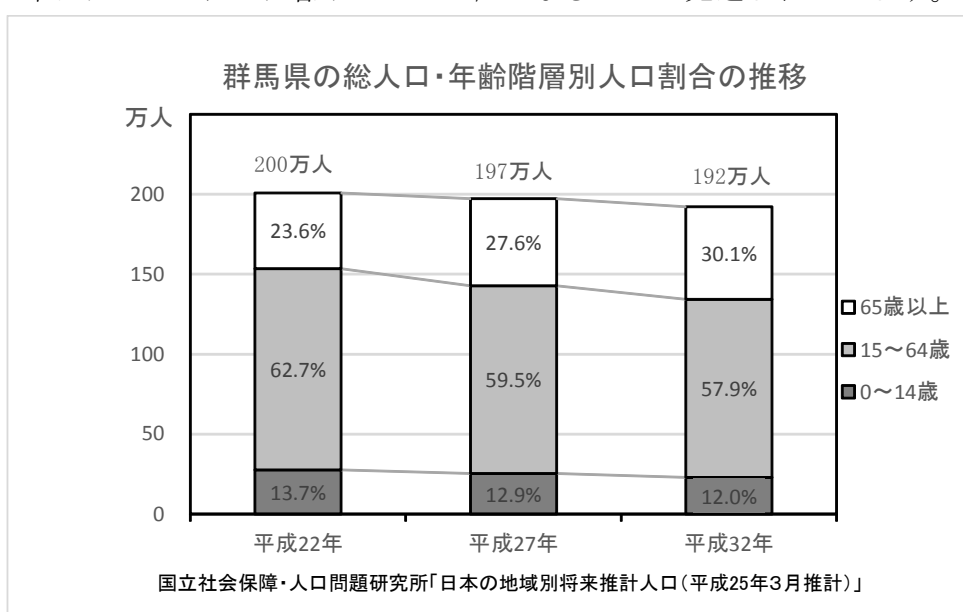
この計画では、ルールに基づいて行われる競技スポーツだけでなく、ウォーキングなどの比較的軽い運動、登山などの野外活動など、幅広い概念でスポーツを捉えています。

## 第2章 群馬県のスポーツの現状

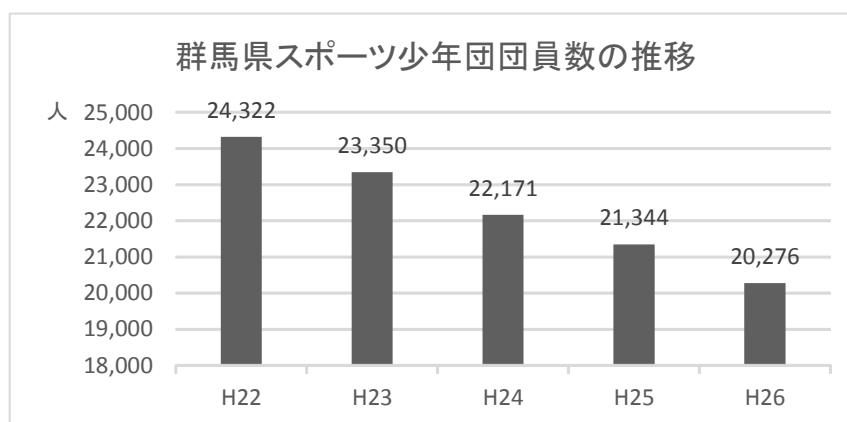
### 1 少子・高齢社会の進展

群馬県の人口は平成27年10月1日現在1,970,295人で、平成16年の2,035,542人をピークに減少しており、今後も減少していくと推計されています。

年齢別では、国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成25年3月推計）によると、年少人口（15歳未満人口）の割合は、平成22年の13.7%から平成32年には1.7ポイント減少して12.0%となり、一方で、老年人口（65歳以上人口）の割合は、平成22年の23.6%から平成32年には6.5ポイント増加して30.1%となることが見込まれています。



このよう高齢社会の進展により、高齢者の健康増進や地域における生きがいの観点から高齢者のスポーツを推進する重要性が高まっています。



また、少子化に伴い、スポーツ少年団や学校の部活動への参加者数が減少し、チームの編成や運営が困難になってきている事例が増加しており、子どもがスポーツに親しむことができる環境を整えることが急務となっています。



**子どもの範囲**

この計画における「子ども」は、「乳幼児期（義務教育年齢に達するまで）、学童期（小学生）及び思春期（中学生からおおむね18歳まで）の者」を指すこととします。

**2 地域のつながりの希薄化**

少子・高齢社会の進展や価値観の多様化等により、地域内の交流や連帯感の低下が生じるなど、地域コミュニティの機能の低下が指摘されています。

総合型地域スポーツクラブを始め、県民の主体的なスポーツ活動を通じてコミュニケーションの機会を増加させるなど、スポーツを活用した地域活性化の取組が重要となります。

**3 障害者スポーツへの関心の高まり**

障害のある人がスポーツに親しむことは、体力の維持・増強・機能の回復を図るとともに、障害のある人が生きがいを持ち、自立や社会参加を促します。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、障害者スポーツに対する関心が高まりつつあります。この機会に障害者スポーツの普及や競技力向上に関する取組を強化し、障害者スポーツの振興を図ります。

**障害のある人（障害者）とは**

この計画における「障害のある人（障害者）」とは、障害者基本法第2条の規定と同じく、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」とします。

**4 スポーツへの新たな関心の高まり**

スポーツ基本法の制定により国のスポーツ基本計画が策定され、平成25年9月には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、平成27年10月からスポーツ庁が発足するなど、スポーツを取り巻く環境は大きく動いています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定は、スポーツを取り巻く環境を大きく変えました。スポーツに対する関心が高まり、国際大会におけるトップアスリートの活躍が大きく取り上げられるなど、注目度や期待が高まっています。

オリンピック大会を始めとする「みる」スポーツへの関心は、「する」スポーツ、「支える」スポーツにも影響すると考えられます。

今後、大規模スポーツイベントのキャンプ地誘致活動や、県内各地で行われるスポーツイベントを通じた地域振興、国際交流、ボランティア活動など、これまでスポーツの枠で捉えられていなかった新たな関心の高まりが期待されます。

## 第3章 群馬県が目指す姿

### 1 基本理念

**県民が生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境を整備し、  
明るく豊かな活力ある「スポーツ県群馬」を実現する**

本県は、昭和53年に「スポーツ県群馬」を宣言し、昭和58年には国民体育大会「あかぎ国体」が開催されました。昭和63年からは全日本実業団対抗駅伝競走大会「ニューイヤ駅伝inぐんま」が開催され、県民挙げての恒例行事となっています。スポーツに親しむ県民意識は高まり、県民スポーツ祭、ぐんま県民マラソンの実施や様々なスポーツ、レクリエーション活動等の普及により、いまやスポーツを行うこと、見ること、スポーツ活動を支えることは、県民生活の一部となっています。

また、地元で育ったスポーツ選手が全国や世界で活躍する姿は、県民の誇りとなり、県民に連帯感や郷土愛を呼び起こし、スポーツへの関心を更に高めます。

スポーツは、体を動かすという人間の根源的な欲求を充足させ、楽しさや喜びをもたらします。このほか、スポーツには、子どもの健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造など、多方面にわたる役割があります。

本県では、このような様々な意義や価値をもつスポーツに、県民一人一人が主体的に関わり、「する・みる・支える」といった県民のスポーツ活動を更に豊かにし、スポーツによって県民が生きがいを感じて暮らすことができる、活力ある「スポーツ県群馬」の実現を目指します。

## 2 施策の方向

群馬県では、群馬県スポーツ振興条例第2条の基本理念に基づき、次の6つの事項を基本施策として、スポーツの推進に取り組みます。

### 1 スポーツに親しむ機会の確保

すべての県民が、体力、年齢、技術、健康状態等に応じて、身近にスポーツに親しむことができる機会を確保します。

### 2 競技力の向上

スポーツ選手の育成、指導者の確保及び養成等を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や世界選手権・全国大会等で活躍する選手の強化に取り組みます。

### 3 子どものスポーツ機会の充実

子どもが学校や地域で継続的に体を動かすことの大切さを学び、スポーツを楽しむことができる環境の整備を図ります。

### 4 スポーツ環境の整備

県民が身近にスポーツに親しむとともに、競技力の向上等が図られるよう、スポーツ施設及びその他スポーツ環境の整備を行います。

### 5 障害者スポーツの支援

障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じて必要な支援を行います。

### 6 生涯スポーツの推進

県民が生涯にわたって、その関心、適性等に応じてスポーツができるよう、市町村と連携して、スポーツ団体の活動の支援や地域における生涯スポーツを推進します。

### 3 基本施策

## 1 スポーツに親しむ機会の確保

#### 施策目標

すべての県民が積極的にスポーツに関わりを持つようとする気運を醸成し、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへの関わり方に応じて、身近にスポーツに親しむことができる機会を確保して、スポーツ県群馬としての魅力が高まるよう努めます。

#### 現 状

- ・ 県民の生活に対する意識は多様化し、価値観や行動様式が変化の中で、スポーツへの関わり方も様々です。自らスポーツを実践する人、地域のスポーツ団体などで指導者として携わる人、また、スポーツ大会を観戦して楽しむ人、そして、地元のプロスポーツチームのサポーターとして携わる人もいます。
- ・ 本県には、地域に根ざし、観戦する楽しみを提供するプロスポーツチームがあります。また、社会人や学生においても、全国で活躍する選手やチームが存在しています。
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を契機として、スポーツに関心の薄い県民が、新たにスポーツに関わることに興味を持つことが予想されます。
- ・ ぐんま県民マラソンでは、2,000人を超える県民が、走路管理や救護などのボランティア活動により運営を支えています。
- ・ 近年、地域と連携したスポーツ大会やイベントが多く開催されるなど、単なるスポーツの振興に限らず、ボランティア活動やPR活動をとおして、地域の特色づくりや活性化を推進している事例が見られます。

#### 課 題

- ・ 県民それぞれのスポーツへの関わり方に応じてニーズが異なるため、トップレベルのスポーツから日常生活動作を応用した運動等のレクリエーション活動まで、だれもが気軽にスポーツに楽しめる機会を提供する必要があります。
- ・ 県内には県有、市町村有を問わず、様々なスポーツ施設が存在しています。県民のだれもがスポーツに親しむことができ、初心者からアスリートまで、それぞれの目的を達成できるよう、安心して気軽に利用できる施設が必要です。
- ・ 健康増進、体力づくりといった本来の目的だけでなく、まちづくりや地域づくりの視点からスポーツをとらえ、県民が自ら積極的に関わることにより、スポーツに親しむことが求められます。

## 今後の施策展開

### (1) トップレベルのスポーツに触れる機会の提供

- ・ニューイヤー駅伝inぐんま（全日本実業団対抗駅伝競走大会）の開催  
日本における実業団駅伝日本一を決める本大会は、国内での有力な長距離選手を間近に観戦・応援できる絶好の機会です。新春の上州路でトップアスリートに触れて感動を共有し、自らの技術の向上を目指すことや、スポーツに親しむ契機となることも期待されます。
- ・スポーツイベント誘致  
トップレベルの選手のプレーを間近に見る機会を県民に提供することで、スポーツへの関心を高め、競技人口の拡大や競技レベルの向上が期待されます。プロ野球公式戦、プロサッカー公式戦及び全国レベルの大会がいつでも開催できるような競技場があることをセールスポイントとして、スポーツイベントを誘致します。

### (2) スポーツによる地域づくり

- ・国際的なスポーツイベントのキャンプ地誘致  
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019などの国際競技大会の事前キャンプ地となることは、世界で活躍するトップアスリートと地域住民との交流による地域の一体感を醸成し、ボランティアとしてスポーツイベントを支えるなど、地域の活性化が期待されます。  
こうした大会のキャンプ地誘致へ向けて、本県の魅力を国内外の競技団体やスポーツ関係者にPRし、市町村と一体となって誘致活動を進めます。
- ・ぐんま県民マラソンの充実  
県民のニーズを把握しながら、運営面・サービス面の見直し・拡充に取り組むことにより、群馬の魅力を発信するとともに、「市民参加型マラソン」として、参加するランナーやボランティアなどの満足度の高い大会を開催します。
- ・プロスポーツの支援  
本県には、サッカーのJリーグ、野球のBCリーグ、バスケットボールのbjリーグ（平成28年10月からBリーグ）に所属する3つのプロスポーツチームがあります。それぞれ地域に根ざした取組を行い、地域貢献を図っています。県では、広報誌やホームページを活用して試合日程や結果等の情報発信、各基準に対応するための施設改修などの支援に取り組みます。
- ・アウトドアスポーツの推進  
本県は北部、山間地を中心に、山岳地形を活用したアウトドアスポーツの地として、注目を集めています。春から秋にかけてのラフティング<sup>\*1</sup>やキャニオニング<sup>\*2</sup>、冬のスキーやスノーシューによるトレッキング<sup>\*3</sup>などが満喫できる魅力ある観光スポットが数多く存在し、若者や外国人を中心に人気があります。  
新幹線や高速道路などの高速交通網による利便性、温泉地や豊かな自然、観光資源を活用した本県特有のアウトドアスポーツの場を整備し、PRすることで、アウトドアスポーツを推進します。

\*1 専用の大型ゴムボートで急流を下るレジャースポーツ。

\*2 沢を上流から下るスポーツ。滝つぼへの飛び込みや、緩やかな滝を滑るなどする。

\*3 「西洋かんじき」を用いた雪上の山歩き。

### 第3章 群馬県が目指す姿

#### (3) スポーツ情報の発信

##### ・スポーツイベント情報の発信

市町村やスポーツ関係団体等と連携し、スポーツ大会などのイベント情報やスポーツ施設情報などの様々なスポーツ情報をインターネットやSNS<sup>\*4</sup>、地域の広報紙、フリーペーパー等を活用して発信します。

#### (4) 気軽にスポーツを楽しむ場の提供

県内には県有、市町村有を問わず、様々なスポーツ施設が存在しています。県民の誰もがスポーツに親しむことができ、スポーツ初心者からアスリートまで、それぞれの目的を達成できるよう、安心して気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。

##### ・県総合スポーツセンター

全国有数規模のアリーナ面積を持つ総合体育館、武道館、弓道場、アイスアリーナ、テニスコートなどの競技施設のほか、多目的に使用できる「ふれあいグラウンド」の利用促進に努めることにより、レクリエーションを通じた健康増進や生きがいづくりなどの多様なニーズに応え、県民の誰でもから親しまれるスポーツ施設として運営します。

##### ・障害者スポーツ施設

障害者スポーツの拠点となる施設（県立ふれあいスポーツプラザ・県立ゆうあいピック記念温水プール）について、利用者が安全に安心してスポーツ活動を楽しめるよう、必要な改修や設備の更新等の整備を行います。

##### ・県立都市公園（敷島公園、群馬の森、金山総合公園、観音山ファミリーパーク、多々良沼公園）

気軽にスポーツを楽しむために、広場や園路などの各公園施設が安全に安心して使えることが必要になります。そのために必要な各種施設の補修・整備を行います。

##### ・群馬県馬事公苑

いつでもだれでも手軽に乗馬ができる施設として、年齢、経験、技術、体力等のレベルに応じた乗馬指導を行います。また、「馬事公苑乗馬少年団」<sup>\*5</sup>の活動を通じて、青少年が乗馬に親しむ機会を提供します。

障害のある人も気軽に楽しめる乗馬（引き馬）の機会を提供します。

### 達成目標

目標項目	平成26年度末	平成32年度末
県総合スポーツセンター利用者数	1,245千人	1,350千人

\*4 インターネット上のコミュニティ型の会員制サービス

\*5 「馬事公苑乗馬少年団」は、青少年の健全な心身の育成と乗馬技術の普及向上を目的に（公財）群馬県馬事公苑が毎年募集しています。（対象：小学5年生から高校生）

### 主な施策

事業名	事業内容	担当課
スポーツイベント誘致	イベント誘致委員会 <sup>*6</sup> を中心に関係団体等と連携し、プロ野球公式戦や競技レベルの高い大会・全国規模の大会などの誘致を積極的に行います。	スポーツ振興課
プロスポーツによる群馬のイメージアップ事業	プロ球団の県外の試合会場において、群馬県をPRする事業を行います。	スポーツ振興課
キャンプ地誘致	県民が世界のトップアスリートを間近で見て、直接触れ合う機会を作ります。ボランティア活動を含めた地域のスポーツに係るコミュニケーションの活性化を図ります。	スポーツ振興課

\*6 本県に大規模イベントを誘致するため県内各界の代表で組織された。ニューイヤー駅伝inぐんま、プロ野球公式戦等の誘致実績がある。

## 2 競技力の向上

### 施策目標

スポーツ選手の育成、指導者の確保及び養成等を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や世界選手権・全国大会等で活躍する選手の強化に取り組みます。

### 現 状

- ・ 本県では、群馬県スポーツ協会と連携し、県全体の競技レベルの向上を図ってきており、国民体育大会の総合成績では、平成24年から平成26年まで連続して10位台を保ってきました。しかしながら、これまで指導者として県の強化の中核を担っていた「あかぎ国体」\*7で活躍した選手や指導者の高齢化に伴い指導者不足などが顕在化しています。その影響で、国体少年の部の獲得得点減少や、2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックでは本県関係の出場者が9名にとどまるなど、一部で競技力の低下傾向が見られます。
- ・ 競技人口が増えない競技団体や、国体関東ブロック大会\*8において、何年も予選を通過できず本大会出場を逃している競技団体が見られます。

### 課 題

- ・ 群馬県スポーツ協会、各競技団体と連携し、有望なジュニア選手の発掘・育成、小・中・高・成年に至るまでの一貫した強化指導体制の構築、指導者の確保・資質向上、トップアスリートの育成を戦略的に行う必要があります。
- ・ 群馬県スポーツ協会や各競技団体は組織及びトップアスリートを育成する体制づくりを、更に充実強化する必要があります。

#### ●国民体育大会での成績

項目		年									
		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
国民体育大会 男女総合成績	本大会開催地	兵庫	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山
	順 位	15	21	22	17	20	21	16	14	14	22

#### ●県関係選手のオリンピック・パラリンピック出場人数

	2006年	2008年	2010年	2012年	2014年
開催地	トリノ(冬)	北京(夏)	バンクーバー(冬)	ロンドン(夏)	ソチ(冬)
オリンピック	2	11	1	7	4
パラリンピック	1	3	0	2	1

\*7 昭和58年に本県で最初に開催された第38回国民体育大会。冬季、夏季、秋季それぞれの大会で全競技を開催した、いわゆる「完全国体」。

\*8 国体本大会を開催するに当たり、大会運営をスムーズに実施するために行う予選会。全国を9ブロックに分類して、本大会の出場権利をかけて行う。



## 今後の施策展開

### (1) ジュニア世代の発掘・育成と強化

- ・国際大会・全国大会で活躍できる選手を目指したジュニア育成  
素質の高いジュニア選手を早期に発掘し、適正な育成プログラムにより組織的・計画的に指導します。<sup>\*9</sup>

### (2) 成年選手の育成・強化

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた育成・強化  
各競技団体が実施する強化事業をより体系化して戦略的に実施することで、全国大会等で優勝できるアスリートや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への出場選手の育成を目指します。

### (3) スポーツ指導者の養成・確保

- ・質の高いスポーツ指導者の養成・確保  
指導者の資質向上を図るため、コーチング方法論やスポーツ医科学<sup>\*10</sup>などを盛り込んだ研修会を実施します。また、各競技団体における指導者養成を推進するために、国内のトップコーチや研究者等を招いて競技団体の実情に合わせた研修会を実施します。  
また、群馬県教員採用試験のスポーツ特別選考や、企業と連携した人材確保等を行うことにより、トップアスリートや質の高いスポーツ指導者の確保に努めます。
- ・障害者スポーツ指導者の育成  
群馬県障害者スポーツ協会や群馬県スポーツ協会等と連携して、障害の特性に応じて適切な指導を行う指導者の育成・レベルアップを行い、アスリートのサポート体制の充実を図ります。

### (4) 競技力向上のための連携

- ・群馬県スポーツ協会との連携  
群馬県スポーツ協会は、県全体の競技力向上のために、現場の声を取り入れた強化事業や施策を推進する中心的役割を担います。関係団体等と連携を図り、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や世界選手権・全国大会等で活躍できるようなトップアスリートの育成や、指導者の養成・確保を推進するなど、二巡目の国体開催も見据えた具体的な強化策を立案し、実施します。  
県では、群馬県スポーツ協会や競技団体と連携して優秀な選手・指導者の育成などの競技力向上対策事業を積極的に行い、総合的なスポーツの普及・強化を実施します。
- ・プロ・企業・大学等との連携  
トップレベルの選手が在籍する県内プロチームや企業チームのノウハウを生かし、トップアスリート育成について連携を行います。また、スポーツ医科学分野において地元大学と協力体制を構築してメディカルサポートを充実させるなど、プロ・企業・大学を活用し競技力向上を図る体制づくりを推進します。

\*9 群馬県スポーツ協会では、平成23年度からジュニア選手の発掘・育成を目的とした「ぐんまスーパーキッズプロジェクト事業」を実施している。

\*10 競技スポーツ選手の身体能力の強化、故障の予防、治療等を取扱う、総合的な専門医学分野のこと。

(5) 競技力向上のための環境整備

・スポーツ医科学の活用

医科学サポート体制を構築するため、県内大学及びスポーツドクター、アスレティックトレーナー<sup>\*11</sup>などのメディカル・コンディショニング有資格者との連携を強化・推進します。

運動能力調査や体力測定、動作分析等を実施するとともに、世界や国内トップレベルのトレーニング科学の情報収集を行い、年齢区分・競技特性に合わせた効果的なトレーニング法や健康管理、傷害予防、救急処置等の情報をアスリートに提供することで、総合的なサポート事業を実施します。

・公認スポーツ栄養士<sup>\*12</sup>の活用

スポーツ選手にとっての食事は、メンタル面にも大きく影響することから、選手一人一人に合ったきめ細かな栄養管理を行うことにより競技力の向上が期待されます。

スポーツ栄養の専門家である公認スポーツ栄養士の指導により、地域で栄養サポートができる人材を育成し、県内のスポーツ選手を支援するための体制を整備します。

(6) 成績優秀者への顕彰

・群馬県スポーツ賞顕彰

全国大会での優勝、国際大会での入賞等、活躍した選手を表彰し、スポーツ振興と郷土意識の高揚を図ります。

---

\*11 スポーツトレーナーのうち、日本体育協会公認又はジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会公認の資格。

\*12 NPO法人日本スポーツ栄養学会が、(公社)日本栄養士会及び(公財)日本体育協会と連携して養成しているスポーツ栄養の専門家(指導者)。

## 達成目標

目標項目	平成27年	平成32年
国民体育大会の総合成績	22位	15位以内

目標項目	平成26年度末	平成32年度末
群馬県スポーツ賞顕彰者数 (全国大会優勝者・国際大会入賞者)	122人	150人
日本体育協会公認スポーツ指導者 登録数（群馬県登録者）	コーチ 335人 上級コーチ 100人	コーチ 400人 上級コーチ 150人

目標項目	平成24年 <sup>*13</sup>	平成32年
東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会に出場する本県関係選手	9人	20人

\*13 ロンドン夏季大会：2012（平成24）年

主な施策

事業名	事業内容	担当課
団体対策推進事業	県内各競技団体、高体連、中体連、企業等が行う強化事業（強化合宿、遠征等）推進のために支援を行います。また、国体本大会の予選となる関東ブロック大会を多くの種目で突破できるよう競技団体等への支援を行います。	スポーツ振興課
ぐんまスーパーキッズプロジェクト	体力・運動能力に優れた人材を早期に発掘し発育段階に応じた計画的・継続的な指導を行い、日本を代表するトップアスリートを育成します。	スポーツ振興課
スポーツ指導者養成事業	各競技に共通した全国・世界のスポーツ情報を県内指導者に提供するとともに、情熱ある指導者の養成と資質向上を目的に、全国の実績ある指導者を招き、研修会を実施します。	スポーツ振興課
スポーツ医科学活用事業	県総合スポーツセンターを医科学拠点とし、収集した全国・世界レベルのデータや県内アスリートの体力測定や筋力測定で得たデータを基に的確なフィードバックを行い、競技団体と連携し競技力の向上を図ります。	スポーツ振興課
ぐんまオリンピック・パラリンピックチャレンジ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アスリートサポート事業」</li> </ul> オリンピック・パラリンピック出場を目指す本県トップアスリートに対し支援を行い、東京2020オリンピック・パラリンピックで本県関係の出場者20人を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ドリームロード事業」</li> </ul> 将来有望な中学生アスリートとその指導者を強化指定することで、トップアスリートを目指す意欲の向上を図ります。	スポーツ振興課

### 3 子どものスポーツ機会の充実

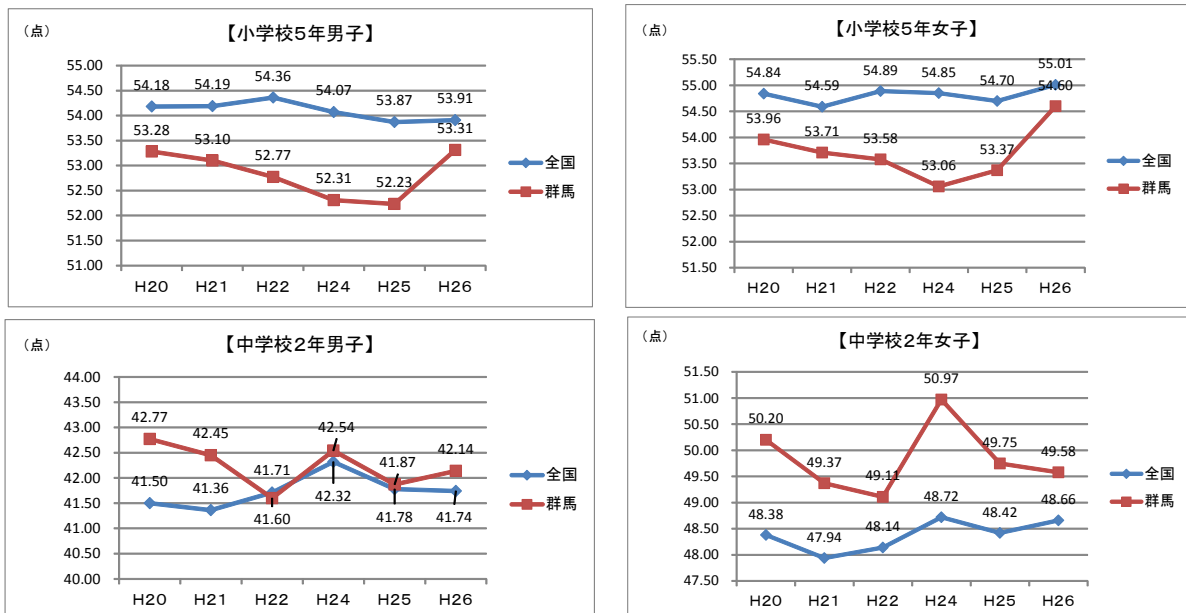
#### 施策目標

子どもが学校や地域で継続的に体を動かすことの大切さを学び、スポーツを楽しむことができる環境の整備を図ります。

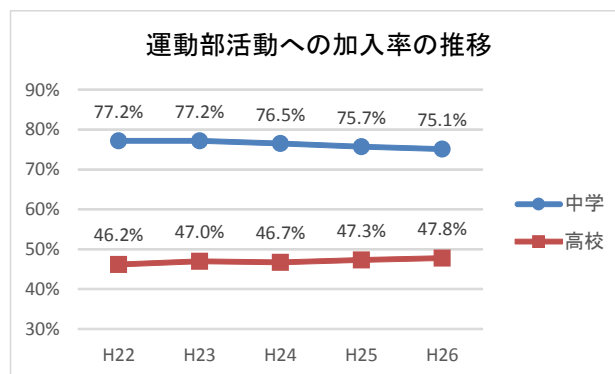
#### 現 状

- 本県の小・中学生の体力は、中学生は全国平均を上回っているものの、小学生は依然として全国平均を下回っています。その要因として、外遊びの減少、車社会の進展等による生活環境の変化、睡眠や食生活等の生活習慣の乱れといった様々なことが絡み合い、結果として子どもが体を動かす機会が減少していることが考えられます。

全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果



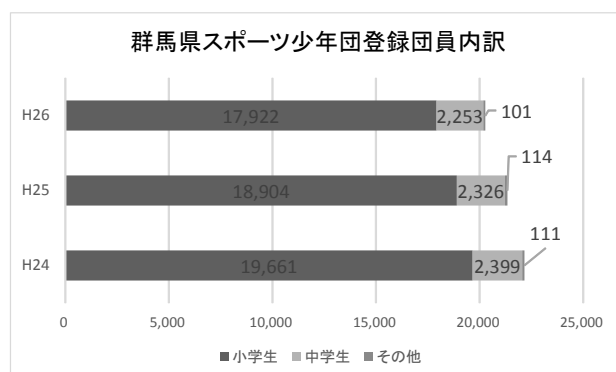
- 中学生の運動部活動加入率は、全国平均よりも高い状況です。しかし、年次推移では減少傾向で、生徒数自体も少子化により減少傾向であることから、学校によっては十分な部員の確保ができず活動が困難な種目も発生してきています。また、高等学校の運動部活動加入率は、年次推移では増加傾向にあります。<sup>\*14</sup>



\*14 県中体連及び・県高体連調査。

### 第3章 群馬県が目指す姿

- 地域でスポーツに触れる場として、スポーツ少年団は、小学生の加入は多いものの、中学生の加入は少ない傾向にあります。また、地域の人々に年齢、興味・関心、技術・技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する、多種目、多世代、多志向のスポーツクラブである総合型地域スポーツクラブは、幅広い年齢層の県民がスポーツに親しむことができますが、地域において十分に活用されていない状況にあります。



## 課題

- 小学校における体育授業の内容の充実とともに、授業時間以外にも体を動かす時間を増やすなど、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が求められています。
- 体力向上に向けた学校の取組に対する家庭や地域の理解を促進することが必要です。
- 指導者（教職員）に対する適切な指導方法、指導の在り方、指導力及びマネジメント力の向上を目指した研修の充実が必要です。
- 学校体育を地域スポーツ、生涯スポーツへ結び付けると同時に、生涯スポーツ、競技スポーツにつながる運動部活動の在り方を検討することが求められています。
- 部活動の質を向上させるために、専門的な能力を持った外部人材の活用を充実・強化する必要があります。
- 地域においては、子どもが身近な場所でスポーツを楽しむために、学校、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブがそれぞれの特性を生かして連携し、子どもを対象としたスポーツ活動の機会や内容を充実させる必要があります。

## 今後の施策展開

### (1) 学校の体育に関する活動の充実

- 地域の特性や児童生徒の現状を踏まえ、保護者、地域とも連携を図りながら小・中学校ごとに、その学校ならではの特色ある体力向上の取組を推進します。
- 運動への取組が消極的な児童生徒が体を動かすことの楽しさを見出し、生活の中に運動を取り入れるきっかけとなるような取組を展開します。

- ・ 授業づくりに役立つ指導資料の作成及び普及を、小学校体育研究会や中学校保健体育研究会<sup>\*15</sup>と連携しながら充実させ、教員の指導力向上を図ります。
- ・ 地域の専門的な指導力を有する外部指導者を学校に派遣し、体育授業の質を向上させます。
- ・ 各学校・幼稚園が学校便り、ホームページ等を活用して自校・園の体力状況について積極的に公表します。

## (2) 運動部活動の充実

- ・ 県中学校体育連盟及び県高等学校体育連盟、県高等学校野球連盟と連携し、生徒の運動部活動への参加機会を充実させていきます。
- ・ 複数校による合同実施やシーズン制等による複数種目実施等、運動部活動における先導的な取組を支援していきます。
- ・ 県内の学校体育団体が実施する開催事業や派遣事業に対し、共同主催者の立場から助成を行い事業推進の円滑化を図ります。
- ・ 「部活動運営委員会」等の運動部活動運営に関する校内組織を各学校に位置付けるよう促します。委員会には教職員、保護者、地域のスポーツ関係者、地域医療関係者等が委員となり、練習内容や練習時間、学校と保護者・地域との連携等について検討します。
- ・ 中・高校の指導者を対象に運動部活動の在り方や効果的な指導法について実技研修や講義等を行い、指導力の向上と運動部活動の活性化を図ります。
- ・ 中学校の運動部活動に対する専門的技術指導を必要とする市町村や県立高校に外部指導者を派遣し、生徒の多様な実技指導のニーズへの対応や顧問の指導力の向上を図ります。
- ・ 外部指導者には、技術面の指導だけでなく、生徒の人格形成に必要な規範意識や倫理観の育成に関する指導力、学校の方針への理解を有する者を委嘱します。

## (3) 幼児期からの体力向上方策の推進

- ・ 幼児期運動指針<sup>\*16</sup>を踏まえ、幼児期から体を動かした遊びに取り組む習慣や望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組を推進します。
- ・ 幼児期運動指針に沿った実態調査を実施し、その結果を基に幼稚園教諭・保育所保育士への研修を行うとともに、保護者への啓発を図ります。

\*15 小・中学校の体育の振興及び指導者の資質向上等を図るため、実技講習等の調査研究事業等を行う。

\*16 運動習慣の基盤づくりを通して幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指して、平成24年文部科学省が策定。

### 第3章 群馬県が目指す姿

- ・ オリンピック・パラリンピックを目指したジュニア育成  
素質のある子どもを早期に発掘するとともに、計画的に育成するための小・中・高の一貫指導体制を構築するために学校体育関係団体と連携し、将来オリンピック・パラリンピックに出場できる選手を生み出す環境づくりを行います。
- ・ スポーツのための食育の推進  
食を考える習慣を身につけ、健全な心と身体を培うための基礎となる食育は、スポーツをするための体づくり、基礎体力の向上するために必要なことです。子どもだけでなく、生涯スポーツを実践するすべての県民に食育の推進を通して、栄養の正しい知識や健康情報の普及を図ります。

#### (4) 子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実

- ・ 群馬県スポーツ少年団への支援  
群馬県スポーツ少年団は、市町村のスポーツ少年団を取りまとめ、スポーツを通じて次代を担う健全な体と心を持った青少年の育成を図ることを目的に活動しています。  
中学校、高等学校におけるスポーツ少年団との関わり方を検討し、スポーツ少年団が行う指導者の研修会及び講習会の開催、交流大会の開催など、各種スポーツ活動への取組を支援します。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの育成  
総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツ活動の中核を担っています。県では、総合型地域スポーツクラブ全体の情報を定期的に把握し、設立済みのクラブに対しては、安定した活動ができるよう講習会等を実施します。また、未設置の町村に対しては、クラブの設立等について指導・助言できるノウハウを有するクラブアドバイザー<sup>\*17</sup>を中心に継続して巡回訪問を行い、設立の支援を行います。
- ・ 子どものスポーツに関連する団体との連携  
群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、県や群馬県スポーツ協会等と連携し、県内の総合型地域スポーツクラブの円滑な活動及び設立に向けた取組の活性化を図り、生涯スポーツの振興に寄与することを目的としています。  
県では、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、スポーツ少年団、市町村等、子どものスポーツに関連する団体と連携し、子どもが多くスポーツに親しむ機会を提供するための活動を促進します。

---

\*17 クラブの設立等について指導・助言できるノウハウを有する。都道府県体育協会（本県は群馬県スポーツ協会）に配置されている。



## 達成目標

目標項目	平成26年度末	平成31年度末 <sup>*18</sup>
小・中学校の全国・体力運動能力、運動習慣等調査における合計得点の全国集計との差	小5（男） -0.60 小5（女） -0.41 中2（男） +0.40 中2（女） +0.92	小5（男） +1.0 小5（女） +1.0 中2（男） +2.0 中2（女） +3.0
運動部活動への加入率	中（男） 85.7% 中（女） 64.1% 高（男） 64.2% 高（女） 31.3%	中（男） 90% 中（女） 70% 高（男） 70% 高（女） 40%
運動部活動における外部指導者の活用状況	中 69.1% 374名 高 70.0% 97名	中 75% 390名 高 75% 100名

目標項目	平成26年度末	平成32年度末
総合型地域スポーツクラブの会員数	8,360人	8,900人

\*18 「第2期教育振興基本計画」の数値。計画期間は平成26年度から平成30年度。基準年度が25年度、目標年度は30年度となっている。

**主な施策**

事業名	事業内容	担当課
ぐんまの子どもの体力向上推進事業	児童生徒の体力向上に向け、教員の資質向上を図り体育授業を充実させるとともに、各学校が、家庭・地域と連携した取組を県内全ての小中学校で推進します。	健康体育課
学校体育指導協力者派遣事業	小学校及び中学校に体育実技の指導及び助言を行うため、水泳・武道・ダンス等の実技指導協力者を派遣します。	健康体育課
スポーツエキスパート活用事業	県立高等学校の運動部活動に専門的な技能・指導力を備えた外部指導者を派遣します。	健康体育課
運動部活動トータルサポート事業	中学校・高等学校における適正な運動部活動運営推進のために、全校を対象とした研修会を開催します。	健康体育課
体育・運動部活動指導者支援事業	中学校・高等学校教員の運動部活動における実技面の指導力の向上を図るために研修会を開催します。	健康体育課
総合型地域スポーツクラブの育成	群馬県スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、総合型地域スポーツクラブの創設及び育成・運営支援を行います。	スポーツ振興課

## 4 スポーツ環境の整備

### 施策目標

県民が身近にスポーツに親しむとともに、競技力の向上等が図られるよう、スポーツ施設及びその他スポーツ環境の整備を進めるとともに、障害者・高齢者も気軽にスポーツに取り組めるように施設のバリアフリー化に努めます。また、施設の利活用により、県民の体力向上・健康の保持を増進し、人々の集い・交流を支援します。

### 現 状

- ・ 県内のスポーツ施設は昭和58年の「あかぎ国体」を契機に整備されたものが多く、必要に応じて改修等を行っていますが、老朽化が進んでいます。
- ・ 施設の中には現行の競技基準に適合していないものもあり、また、国体の正式種目でありながら活動の拠点となる施設のない競技があります。
- ・ 平成26年に「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」を策定し、国体やインターハイなどの大規模大会が開催でき、将来にわたって県民のスポーツ活動の受け皿となる施設や、各競技団体の主要な活動拠点となる施設の設置や管理を適切に進めていくための基本方針を示しました。

### 課 題

- ・ 本県で二巡目となる国体に備え、老朽化が進んでいる施設の計画的な整備が必要となります。
- ・ 県民の様々なニーズに適切に応える環境の整備を進めていくとともに、障害のある人や高齢者が安心して施設を利用し、スポーツに親しむことができるよう、施設のバリアフリー化を推進していく必要があります。
- ・ プロスポーツ公式戦や大規模大会が開催できる競技場には、一定水準の競技場規格や整備が求められるため、その水準を満たす整備や補修が必要となります。
- ・ 競技能力が高い選手のプレーを間近で見るために、全国大会レベルの選手やプロスポーツ選手が全力を出し切ることができる競技場を整えておく必要があります。

### 今後の施策展開

#### (1) 施設の維持管理・活用促進

- ・ スポーツ施設は長年の使用による老朽化や破損等が避けられません。  
だれもが安全に競技や観戦ができ、大規模なイベント等にも対応できるよう、定期的な点検や補修等の維持管理を行い、施設の活用促進を図ります。

(2) 大規模大会開催に向けての施設の整備

・拠点施設の整備

「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」において、「競技別拠点スポーツ施設」に位置付けた施設<sup>\*19</sup>について、施設の耐震性能や、現行の競技基準への適合状況などを考慮し、整備を進めます。また、活動の拠点となる施設のない競技については拠点施設の整備を進めます。

・県有施設における整備

○県立敷島公園【都市計画課】

- ・ 陸上競技場の第1種公認<sup>\*20</sup>を受けるなど、各競技の施設基準を満足するための補修・整備を行います。
- ・ プロ野球公式戦がいつでも開催できるよう野球場の補修・整備を行います。
- ・ ザスパクサツ群馬のホームスタジアムとして、J1クラブライセンス<sup>\*21</sup>の施設基準を満たすために競技場の補修・整備を行います。
- ・ 水泳場やテニス場などを、大規模大会開催のために支障が生じないように、補修や整備を行います。

○県総合スポーツセンター【スポーツ振興課】

大規模大会や各種イベントにも対応できる本県最大のスポーツの拠点施設として親しまれていますが、今後も県民が利用しやすい施設を目指し、各施設の整備・充実に努めます。

○伊香保リンク【スポーツ振興課】

県内で唯一の400m屋外リンクを有するスケート及びアイスホッケー競技の拠点施設として、各施設の補修・整備に努めます。

○ライフル射撃場【スポーツ振興課】

ライフル射撃を通じて、県民の健全な心身の発達及び射撃愛好者の銃器の正しい取扱技術の習得並びに射撃技術の向上を図るため、施設改修等の整備を推進し、利用者の増加を図ります。

○県立ふれあいスポーツプラザ・県立ゆうあいピック記念温水プール【障害政策課】

障害者スポーツの拠点施設として、利用者が安全に安心してスポーツを楽しめるよう、必要な改修や設備の更新等の整備を行います。

○クレー射撃場【自然環境課】

クレー射撃を通じて、県民の健全な心身の発達並びに狩猟者の銃器の正しい取扱技術の習得及び射撃技術の向上を図るため、施設改修等の整備を推進し、利用者の増加を図ります。

---

\*19 「第4章 資料編」に掲載。

\*20 日本陸上競技選手権大会、国民体育大会等の日本陸上競技連盟が主催する全国規模大会及び国際的な大会が開催できる競技場。第1種公認の要件として第3種陸上競技場の併設が必要であり、補助陸上競技場が第3種公認陸上競技場として公認されている。

\*21 日本プロサッカーリーグではクラブライセンス制度を導入しており、J1に参加するための資格。

○群馬県馬事公苑【畜産課】

- ・ いつでもだれでも手軽に乗馬ができる施設として、年齢、経験、技術、体力等のレベルに応じた乗馬指導を行います。また、「馬事公苑乗馬少年団」の活動を通じて、青少年が乗馬に親しむ機会を提供します。
- ・ 障害のある人も気軽に楽しめる乗馬（引き馬）の機会を提供します。
- ・ 県内唯一の乗馬競技施設として乗馬競技力を向上する役割を担っている施設です。「馬事公苑大会」\*22の一部を日本馬術連盟の公認大会とすることにより、ハイレベルな競技を取り入れ、競技力の向上を図ります。
- ・ 建設から年数が経過し、施設が老朽化してきています。県内唯一の乗馬競技施設として、利用者が安全かつ快適に利用できるよう施設の補修・整備に努めます。

○県営ゴルフ場のクラブハウス【企業局施設管理室】

建設から年数が経過し、設備の老朽化が進行しています。引き続きゴルフを通じて、県民にスポーツに親しむ場と環境を提供するとともに、利用者の更なる利便性の向上を図るため、玉村ゴルフ場を始め、他の4ゴルフ場のクラブハウスも段階的に整備していきます。

・市町村有施設の整備への支援

「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」に位置付けた市町村有競技別拠点スポーツ施設の中から、今後国体やインターハイなどの大規模大会開催に備え、主会場となり得る施設を市町村が整備する場合において、県から経費の一部を補助することにより、効率的な整備を図ります。

(3) だれもが利用しやすい施設の整備

・バリアフリー\*23に配慮した施設の整備

障害者や高齢者が安全に安心して施設を利用できるよう、段差の解消やスロープの設置、多目的トイレへの改修など、「人にやさしい福祉のまちづくり条例」及び「群馬県移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例」に対応した整備を促進し、障害者や高齢者のスポーツ参加を推進します。

・授乳室等の整備

乳幼児を持つ母親やその家族が安心してスポーツ施設を利用し、スポーツに親しめるよう、授乳室等の整備を進めます。

・AED（自動体外式除細動器）の整備

県有のスポーツ施設へのAEDの設置及び日常点検に努め、施設管理者を対象とした救命講習を開催するなど、適切に運用できる体制の整備を図ります。

\*22 (公財) 群馬県馬事公苑が主催して定期的で開催している乗馬大会。

\*23 高齢者や障害者が社会生活を送る上で、障壁となるものを取り除くこと。

**達成目標**

目標項目	平成26年度末	平成32年度末
県総合スポーツセンター利用者数	1,245千人	1,350千人
県総合スポーツセンター施設充実度 <sup>*24</sup>	79%	85%

**主な施策**

事業名	事業内容	担当課
市町村有競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金	「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」で位置付けた拠点スポーツ施設を市町村が整備する場合、制度の趣旨を満たしたものについて、予算の範囲内で財政的支援を行います。	スポーツ振興課

\*24 県総合スポーツセンターアンケート調査結果報告書による。

## 5 障害者スポーツの支援

### 施策目標

障害のある人がスポーツに親しむことは、体力の維持・増強・機能の回復を図るとともに、日常の楽しみや充実した生活の実現につながります。また、スポーツを通じて多くの人と知り合い、社会に参加することにもつながります。

障害のある人が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じて必要な支援を行います。

### 現 状

- ・ 本県では、群馬県障害者スポーツ大会の開催や全国障害者スポーツ大会への選手団派遣等の取組を実施し、障害のある人のスポーツ活動を通じて、自己実現と交流の機会の拡大を推進してきました。
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、障害者スポーツへの関心が高まりつつある中、様々な施策を通して、スポーツの普及を図るだけでなく、国際大会で活躍できる高いレベルを目指す人の競技力の向上にも取り組んでいます。

### 課 題

- ・ 障害者スポーツに関する情報を得る手段や機会が少なく、スポーツを始めたいが、欲しい情報が手に入らないといった人に対し、障害者スポーツに関する情報発信を行うほか、障害のある人からの相談に応じる窓口の整備が必要となります。
- ・ 指導者や活動場所等が不足しており、更に財政的支援等が十分でないという課題があります。関係する団体等と連携を図りながら、指導者の養成や活動場所の確保等を行う必要があります。

### 今後の施策展開

- (1) 各種障害者スポーツ大会の開催、パラリンピック等の国際大会への参加支援
  - ・ 各種障害者スポーツ大会等を開催し、障害のある人のスポーツ活動への参加機会の拡大を図ります。また、パラリンピック等の国際大会への参加を支援し、障害者スポーツの振興を図ります。
- (2) 障害者スポーツの情報発信・啓発
  - ・ 各地域における障害者スポーツの現状や取組状況を把握するとともに、障害者スポーツの情報発信・啓発に取り組みます。
- (3) 障害者スポーツ指導員の養成、競技力向上支援
  - ・ 障害のある人のスポーツ振興を図るため、障害の特性に応じて適切な指導を行う障害者スポーツ指導員を養成します。また、群馬県障害者スポーツ協会や群馬県スポーツ協会と連携し、競技力向上の取り組みを支援します。

### 第3章 群馬県が目指す姿

- (4) 県立ふれあいスポーツプラザ、県立ゆうあいピック記念温水プールの運営
  - ・ 障害者スポーツの拠点となる施設について、引き続き適切な運営に努めます。
  
- (5) 競技団体の育成
  - ・ 障害者スポーツの競技団体を育成し、障害のある人のスポーツ活動を支援する体制の整備に努めます。
  
- (6) 群馬県障害者スポーツ協会の体制強化
  - ・ 群馬県の障害者スポーツ振興の中心的役割を担う群馬県障害者スポーツ協会の体制を強化し、群馬県スポーツ協会との連携のもとに、障害者スポーツの普及推進と競技力向上を図ります。
  
- (7) 障害者スポーツを取り巻く関係者との連携
  - ・ スポーツ関係者・障害者スポーツ関係者・福祉関係者との情報交換や交流を行い、障害者スポーツに対する連携協力体制の確保・強化に取り組みます。

#### 達成目標

目標項目	平成26年度末	平成29年度末
全国障害者スポーツ大会の応募人数	97人／年	150人／年
県障害者スポーツ大会の参加人数	2,192人／年	2,600人／年
障害者スポーツ指導員数	上級： 9人 中級： 36人 初級： 286人	上級： 15人 中級： 60人 初級： 350人

(「バリアフリーぐんま障害者プラン6」<sup>\*25</sup>から)

\*25 群馬県障害者計画・第4期群馬県障害福祉計画。本県の障害者施策の基本的方向を定めたもので、計画期間は平成27年度から平成29年度。基準年度が25年度、目標年度は29年度となっている。



## 主な施策

事業名	事業内容	担当課
全国障害者スポーツ大会選手派遣	障害者スポーツの一層の発展を図り、障害者に対する社会の理解と認識を深めるとともに、自立と社会参加の促進に寄与することを目的として実施される全国障害者スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会関東ブロック予選会に選手団を派遣します。	障害政策課
群馬県障害者スポーツ大会開催	スポーツを通じて障害者の体力の維持増強及び社会参加を促進するとともに、障害者に対する理解を深めることを目的として、群馬県障害者スポーツ大会を開催します。	障害政策課
障害者スポーツ普及推進	障害者スポーツの普及を図るために、ホームページを通じた情報発信・各団体との連携等を担うコーディネーターの設置や、学校等においてトップアスリート交流事業を実施します。	障害政策課
障害者スポーツ競技力向上	パラリンピック等の国際大会で活躍する選手を輩出することを目的に、優れた人材を早期に発掘して、関係団体との連携により、計画的な育成・支援を図るパラアスリート発掘・育成事業を実施します。	障害政策課

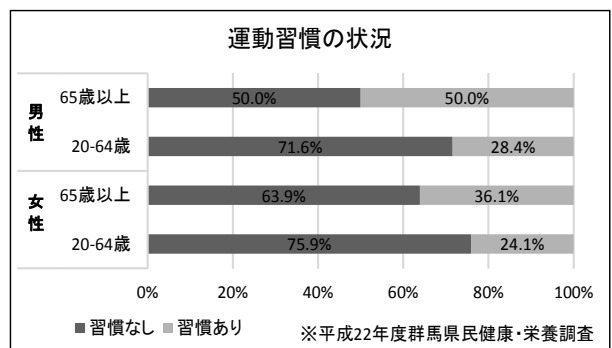
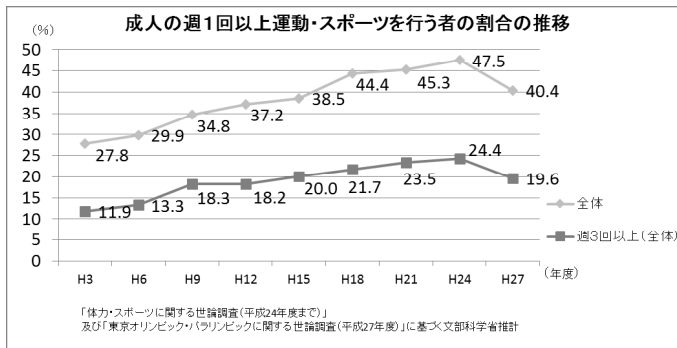
# 6 生涯スポーツの推進

## 施策目標

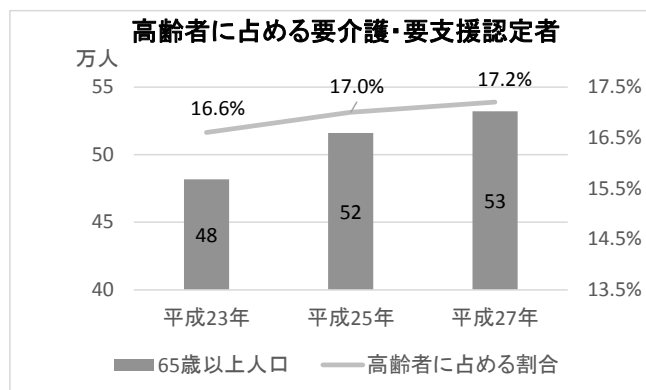
年齢層や性別、生活環境、健康状態等、ライフステージに応じてスポーツを楽しむことは、個人の健康や生きがいにつながります。県民の身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携して、スポーツ団体の活動の支援や、地域における生涯スポーツを推進するよう努めます。

## 現 状

- 文部科学省の推計<sup>\*26</sup>によると、週1回以上運動・スポーツを行う成人の割合は増加傾向であったが、平成27年度の調査では低下傾向がみられます。



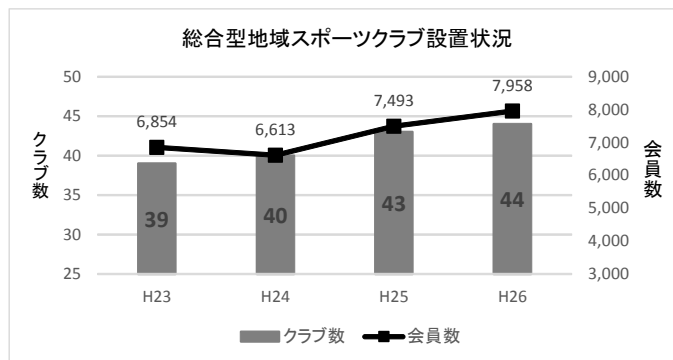
- 「群馬県民健康・栄養調査」では、本県の運動習慣のある者の割合は、20歳から64歳の男性28.4%、女性24.1%、65歳以上の男性50.0%、女性36.1%であり、全体として決して高いとは言えない状況にあります。
- 平成27年3月の県内の高齢者人口（第1号被保険者数）532,132人のうち、要介護・要支援認定者は91,645人で全体の17.2%であり<sup>\*27</sup>、残りの8割以上の人は介護を必要としない元気な高齢者です。



\*26 「体力・スポーツに関する世論調査」（平成25年1月調査）及び「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」（平成27年6月調査）。いずれも内閣府調査。

\*27 「群馬県介護保険事業状況報告年報・月報」の暫定値による。

- ・ 障害のある人にとっても、スポーツは日常の楽しみであり、社会に参加するきっかけとなっています。本県では、県障害者スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会への選手団派遣等の取組を実施しています。また、各市町村等で開催されるスポーツ教室や大会等もあり、障害のある人がスポーツに親しんでいます。
- ・ 身体活動・運動量の多い人は、少ない人に比較して循環器疾患やがんなどの生活習慣病の発症リスクが低いことが実証されています。また、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防には、運動習慣により身体機能を維持していくことが重要です。
- ・ 人口減少や高齢化によりチームが結成できないなど、地域において継続的にスポーツに取り組むことが難しくなっています。
- ・ 地域住民が主体的に運営し、地域の特性や実状に応じてスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブは、スポーツやレクリエーション活動の場であるとともに、地域住民の交流の場として大きな役割を果たすことが期待されています。
- ・ 総合型地域スポーツクラブは、地域の人々に年齢、興味・関心、技術・技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する、多種目、多世代、多志向のスポーツクラブです。県内35市町村に少なくとも1つ設立することを目標として取り組んだ結果、平成27年4月1日現在で、27市町村44クラブ（うち設立準備中1）が設立されています。



- ・ スポーツ推進委員（旧体育指導委員）は地域スポーツの推進役として、地域住民に対する実技指導や市町村が実施するスポーツ事業の企画立案・運営等に携わっていますが、スポーツ基本法で追加された、地域住民のニーズに応じたスポーツのコーディネーターの役割については十分でない面も見られます。

## 課題

- ・ 市町村においては、学校体育施設等、既存施設の有効活用の支援や、地域住民のだれもが参加できるスポーツ大会を開催するなどの取組の充実が求められます。また、スポーツ推進委員が、地域におけるコーディネーターの役割を十分に果たせるような環境を整える必要があります。
- ・ 地域のスポーツ環境を充実させるためには、県、市町村、学校、企業、地域のスポーツクラブ等がそれぞれの組織の特色を生かし、連携して継続的な取組をすることが求められます。

- ・ 子どもから高齢者まで幅広い年齢層において、身近な地域でスポーツに親しむために、総合型地域スポーツクラブの理念や趣旨等を周知して、参加の促進を図る必要があります。
- ・ より多くの障害のある人が身近な地域でスポーツに親しめるよう、地域における障害者スポーツに関する情報や、地域での活動場所等に関する情報の発信を行うとともに、関係する団体等と連携を図りながら、地域における活動場所の確保を行う必要があります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの設立・育成等の支援を行うとともに、指導者の養成や資質向上のための研修会等の充実を図ることが求められます。
- ・ 障害者スポーツの指導者や活動場所等が不足しており、更に財政的支援等が十分でないという課題があります。関係する団体等と連携を図りながら、指導者の養成や活動場所の確保等を行う必要があります。
- ・ 認知症や寝たきりにならずに自立した状態で生活できる期間である「健康寿命」を延ばすため、健康増進や体力向上などの目的や意図をもって、スポーツや運動を日常生活で実践できる環境の整備を推進することが必要です。

## 今後の施策展開

### (1) 幅広い世代のスポーツ参加の促進

- ・ 県民スポーツ祭の開催<sup>\*28</sup>  
様々な種目の団体が地域で自主的に行うスポーツ大会を、「県民スポーツ祭」を冠して行うことによりスポーツ人口の拡大を図り、県民がスポーツを親しむ機会を促進します。
- ・ 野外スポーツ及びスポーツ・レクリエーションの推進  
野外スポーツやスポーツ・レクリエーションは、競技としてだけでなく、楽しみや健康づくりなど、生きがいのある豊かな生活の実現のために多くの効果が期待されています。  
ハイキング、サイクリング、キャンプ活動などの野外スポーツや、グラウンド・ゴルフ、3B体操<sup>\*29</sup>、スポーツ吹矢などの様々なスポーツ・レクリエーションを推進して、県民がスポーツに取り組む環境を支援します。
- ・ 群馬県レクリエーション協会との連携  
群馬県レクリエーション協会は、県内のレクリエーション関係団体を総括する団体として、レクリエーション活動を通して県民の心身の健康保持を図ることで県民生活の向上に資するとともに、生涯にわたってスポーツを楽しむ習慣づくりを推進することを目的に活動しています。  
県では、群馬県レクリエーション協会と連携し、生涯スポーツの推進を図ります。

\*28 平成26年度県民スポーツ祭は、還暦軟式野球大会、ちびっ子相撲大会など、32大会を行った。

\*29 3つのB（ボール、ベル、ベルターという用具）を使用して健康のために行う軽スポーツ。

(2) 高齢世代のスポーツ参加の促進

- ・ぐんまねりんピックの開催  
スポーツや文化活動を通じて、高齢者の健康の保持増進と交流を図り、スポーツの輪を広げるとともに、生きがいづくりを進め、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを推進することを目的に開催します。
- ・全国健康福祉祭（ねりんピック）への参加  
全国健康福祉祭（ねりんピック）へ群馬県選手団を派遣し、高齢者の積極的な仲間づくりや世代間交流を促進するとともに、正しい健康づくりへの理解を深め、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを推進しています。
- ・高齢者が気軽に楽しめる軽スポーツの普及  
グラウンド・ゴルフ、3B体操、スポーツ吹矢など、高齢者が気軽に楽しめる軽スポーツを推進します。

(3) 障害者のスポーツ参加の推進

- ・障害者スポーツの情報発信・啓発  
各地域における障害者スポーツの現状や取組状況を把握するとともに、障害者スポーツの情報発信・啓発に取り組みます。
- ・障害者スポーツ指導員の養成や施設の利用促進  
障害の特性に応じて適切な指導を行う障害者スポーツ指導員を養成します。また、障害のある人が身近な施設で活動しやすいよう支援します。

(4) スポーツを通じた健康づくり

- ・健康スポーツ指導者の育成及び活用  
年齢や体力等に応じて指導ができる「健康スポーツ指導者」を育成し、資質向上を図るための研修会を実施します。  
また、地域、職場及びスポーツ愛好団体等の要請に応じて「健康スポーツ指導者バンク」\*30から指導者を派遣して生涯スポーツや健康増進活動を指導する「生涯スポーツ巡回指導」の支援を行い、健康スポーツ指導者制度の有効活用を図ります。
- ・介護予防サポーターの養成・介護予防の充実  
各地域において介護予防サポーターが、体力づくりの体操や介護予防に関する事業を支えるボランティアとして活躍しています。  
市町村が地域の実情に応じて介護予防サポーターの養成ができるよう、地域リハビリテーション広域支援センターと連携し、技術的な支援等を行うことにより、介護予防に対する理解を図ります。
- ・健康運動指導士及び健康運動実践指導者との連携  
安全で効果的なスポーツを実施するためのプログラムや実践方法を提案し、具体的な指導を行っている健康運動指導士及び健康運動実践指導者と連携し、県民への情報提供や運動講習会等により運動習慣の定着を図ります。

---

\*30 群馬県スポーツ協会が定める理論・実技等の講習会の全課程修了者を「健康スポーツ指導者」として登録する制度。登録期間は2年。

- ・スポーツのための食育の推進

食を考える習慣を身につけ、健全な心と身体を培うための基礎となる食育は、スポーツをするための体づくり、基礎体力の向上するために必要なことです。子どもだけでなく、生涯スポーツを実践するすべての県民に食育の推進を通して、栄養の正しい知識や健康情報の普及を図ります。

- ・ウォーキングコースの利用促進

運動習慣は、個人の意識や動機付けだけでなく、実践できる生活環境や社会支援（スポーツに施設や公共交通機関などのインフラ整備等）が大切です。県民の健康増進を目的としたまちづくりとして、市町村の協力によりウォーキングマップの作成や普及啓発を行います。

- ・自転車道の維持管理及び利用促進

舗装、防護柵や案内表示等の補修を適切に行うことで、サイクリングロードを安心して利用できる環境を維持します。また、自転車道パンフレットの配布により、自転車道を広くPRし、魅力度を向上させます。

#### (5) 地域のスポーツを支える人材の育成

- ・スポーツ推進委員の資質向上

スポーツ推進委員（旧体育指導委員）は、各市町村において住民に対する実技指導やスポーツ関連の企画運営及び地域住民と行政の調整を行うなど、地域スポーツ推進のための重要な役割を担っています。

総合型地域スポーツクラブの育成や支援など、地域スポーツにおけるコーディネーターの役割が一層期待されるため、市町村と連携して研修会の充実を図り、スポーツ推進委員の資質向上に努めます。

- ・群馬県スポーツ推進委員協議会との連携

群馬県スポーツ推進委員協議会は、市町村スポーツ推進委員をもって構成され、スポーツ推進委員の資質向上のための研修会や研究大会の開催、情報交換等を実施しています。県では、群馬県スポーツ推進委員協議会が行う研修会を連携して実施するなど、事業を支援します。

- ・企業・大学等との連携

スポーツ指導者の指導力の向上を図るため、大学や企業、民間スポーツクラブとの連携による研修会を開催します。

- ・生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰

地域や職場などで、地道な活動を継続し、生涯スポーツの健全な普及及び発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体を表彰します。

## (6) 総合型地域スポーツクラブの育成と支援

## ・総合型地域スポーツクラブの育成

総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツ活動の中核を担っています。県では、総合型地域スポーツクラブ全体の情報を定期的に把握し、設立済みのクラブに対しては、安定した活動ができるよう講習会等を実施します。また、未設置の町村に対しては、クラブの設立等について指導・助言できるノウハウを有するクラブアドバイザーを中心に継続して巡回訪問を行い、設立の支援を行います。

## ・総合型地域スポーツクラブと地域との連携

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、県や群馬県スポーツ協会等と連携し、県内の総合型地域スポーツクラブの円滑な活動及び設立に向けた取組の活性化を図り、生涯スポーツの振興に寄与することを目的としています。

県では、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会や市町村等と連携し、総合型地域スポーツクラブの安定した基盤づくりと活発な活動を促進します。

## ・総合型地域スポーツクラブ間のネットワークの拡充支援

総合型地域スポーツクラブ相互の情報交換や連携、交流等を促進することを通じて、総合型地域スポーツクラブ間のネットワークの拡充を支援します。

また、市町村やスポーツ関係団体等と連携し、スポーツ大会、イベント情報やスポーツ施設設置状況などに関する様々なスポーツ情報を提供します。

**達成目標**

目標項目	平成26年度末	平成32年度末
県民スポーツ祭各種大会参加者数	14,291人	16,000人
健康スポーツ指導者バンク登録者数	170人	200人
総合型地域スポーツクラブの会員数	8,360人	8,900人

## 主な施策

事業名	事業内容	担当課
県民スポーツ祭	様々な生涯スポーツ団体と連携して、だれもが気軽に参加できるスポーツ大会の開催を支援します。	スポーツ振興課
生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰	地域や職場などで地道な活動を継続し、生涯スポーツの健全な普及・発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体を表彰します。	スポーツ振興課
総合型地域スポーツクラブ育成	群馬県スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、総合型地域スポーツクラブの創設及び育成・運営支援を行います。	スポーツ振興課
群馬県障害者スポーツ大会開催	スポーツを通じて障害者の体力の維持増強及び社会参加を促進するとともに、障害者に対する理解を深めることを目的として、群馬県障害者スポーツ大会を開催します。	障害政策課
障害者スポーツ普及推進	障害者スポーツの普及を図るために、ホームページを通じた情報発信・各団体との連携等を担うコーディネーターの設置や、学校等においてトップアスリート交流事業を実施します。	障害政策課
健康運動支援体制整備	健康運動指導士会を始め、健康運動に係わる団体等と連携し、県民公開講座の開催等により県民が運動を実践できるよう、支援を行います。	保健予防課
「ふるさとぐんま健康のみち」普及啓発	身近な道を楽しく歩いて健康になってもらうために、市町村のウォーキングコースを活用促進するとともに、健康な歩き方を普及啓発します。	保健予防課
人材育成事業	スポーツ栄養の専門家である公認スポーツ栄養士等と協力して、生涯を通じてスポーツを実践するための正しい栄養、食生活の知識を普及するための人材を育成します。	保健予防課





## 4 達成目標一覧

目標項目	基準年度 (H26)	目標年度 (H32)
<b>基本施策1 スポーツに親しむ機会の確保</b>		
県総合スポーツセンター利用者数	1,245千人	1,350千人
<b>基本施策2 競技力の向上</b>		
国民体育大会の総合成績	22位 (H27)	15位以内 (H32)
群馬県スポーツ賞顕彰者数 (全国大会優勝者・国際大会入賞者)	122人	150人
日本体育協会公認スポーツ指導者 登録数 (群馬県登録者)	コーチ 335人 上級コーチ 100人	コーチ 400人 上級コーチ 150人
東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会に出場する本県関係選手	9人 (H24)	20人 (H32)
<b>基本施策3 子どものスポーツ機会の充実</b>		
小・中学校の全国・体力運動能力、運動習慣等調査における合計得点の全国集計との差	小5 (男) -0.60 小5 (女) -0.41 中2 (男) +0.40 中2 (女) +0.92	小5 (男) +1.0 小5 (女) +1.0 中2 (男) +2.0 中2 (女) +3.0 (H31)
運動部活動への加入率	中(男) 85.7% 中(女) 64.1% 高(男) 64.2% 高(女) 31.3%	中(男) 90% 中(女) 70% 高(男) 70% 高(女) 40% (H31)
運動部活動における外部指導者の活用状況	中 69.1% 374名 高 70.0% 97名	中 75% 390名 高 75% 100名 (H31)
総合型地域スポーツクラブの会員数	8,360人	8,900人

目標項目	基準年度 (H26)	目標年度 (H32)
<b>基本施策4 スポーツ環境の整備</b>		
県総合スポーツセンター利用者数	1,245千人	1,350千人
県総合スポーツセンター施設充実度	79%	85%
<b>基本施策5 障害者スポーツの支援</b>		
全国障害者スポーツ大会の応募人数	97人/年	150人/年 (H29)
県障害者スポーツ大会の参加人数	2,192人/年	2,600人/年 (H29)
障害者スポーツ指導員数	上級： 9人 中級： 36人 初級： 286人	上級： 15人 中級： 60人 初級： 350人 (H29)
<b>基本施策6 生涯スポーツの推進</b>		
県民スポーツ祭各種大会参加者数	14,291人	16,000人
健康スポーツ指導者バンク登録者数	170人	200人
総合型地域スポーツクラブの会員数	8,360人	8,900人

## 第4章 資料編

### 1 群馬県スポーツ推進審議会委員名簿

	氏 名	役 職 名
1	相原 俊子	民間スポーツ指導者
2	大谷 武夫	群馬県スポーツ推進委員協議会会長
3	大山 碩也	群馬県市町村教育委員会連絡協議会会長（～H27. 11. 24）
4	横田 衛	群馬県市町村教育委員会連絡協議会会長（H27. 11. 25～）
5	鬼澤 陽子	群馬県大学教育学部准教授
6	小野里順子	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会副会長
7	小野里真弓	上武大学准教授
8	片野 清明	群馬県障害者スポーツ協会会長
9	小池 せん	群馬県スポーツ推進委員協議会女性委員会委員長
10	◎ 児玉 三郎	（公財）群馬県スポーツ協会会長
11	須川 清	群馬県中学校体育連盟会長
12	内藤 年伸	群馬県小学校体育研究会会長
13	中沢 丈一	群馬県レクリエーション協会会長
14	林 康宏	群馬県高等学校体育連盟会長
15	○ 松本 富子	群馬県女子体育連盟会長
16	涌沢 孝幸	公募委員

◎会長、○副会長 （敬称略、五十音順）

## 2 「群馬県スポーツ推進計画」策定の経緯

開催日	項目	内容
平成27年8月4日	平成27年度第1回 群馬県スポーツ推進審議会	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）の策定及び基本的な考え方について
平成27年8月6日 ～8月31日	計画策定に係るスポーツ団体等からの意見募集	
平成27年8月21日	計画策定に関する検討会 第1回会議	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）の策定及び同策定に係る検討会について ・今後の進め方について
平成27年9月29日	平成27年第3回前期定例県議会 厚生文化常任委員会	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）の策定について報告
平成27年10月21日	平成27年度第2回 群馬県スポーツ推進審議会	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）素案について
平成27年11月 日	平成27年第3回後期定例県議会 厚生文化常任委員会	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）素案について
平成27年12月 日 ～ 平成28年1月 日	県民からの意見募集（パブリックコメント）	
平成28年1月 日	平成27年度第3回 群馬県スポーツ推進審議会	・群馬県スポーツ推進計画（仮称）のパブリックコメント結果及び最終案について
平成28年 月 日	平成28年第1回定例県議会へ上程	
平成28年3月 日	平成28年第1回定例県議会において議決	

### 3 群馬県スポーツ振興条例

平成25年3月26日 条例第29号

群馬県は、昭和五十三年に「スポーツ県群馬」を宣言した。昭和五十八年には国民体育大会「あかぎ国体」が開催され、昭和六十三年からは全日本実業団対抗駅伝競走大会「ニューイヤー駅伝」が本県で開催され、県民挙げての恒例行事となっている。

スポーツに親しむ県民意識は高まり、県民スポーツ祭、ぐんま県民マラソンの実施や様々なスポーツ、レクリエーション活動等の普及により、いまやスポーツを行うこと、見ること、スポーツ活動を支えることは、県民生活の一部となっている。

また、地元で育ったスポーツ選手が全国や世界で活躍する姿は、県民の誇りとなり、県民に連帯感や郷土愛を呼び起こし、スポーツへの関心をさらに高める。

優れたスポーツ選手を育てるとともに、県民が生涯にわたり、いつでも、どこでもスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができるよう、スポーツ環境の整備に努め、スポーツによる明るく豊かな県民生活の実現を目指し、この条例を制定する。

(目的)

**第一条** この条例は、スポーツの振興に関する基本理念を定め、県及びスポーツ団体の責務並びに県民の役割を明らかにするとともに、スポーツ環境の整備等に関し基本となる事項を定めることにより、スポーツの振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の心身の健全な発達及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。

(基本理念)

**第二条** スポーツの振興に関する施策は、次に掲げる事項を基本として推進されなければならない。

- 一 スポーツに親しむ機会の確保 すべての県民が、体力、年齢、技術、健康状態等に応じて、身近にスポーツに親しむことができる機会が確保されること。
- 二 競技力の向上 スポーツ選手の育成、指導者の確保及び養成等により競技力の向上が図られること。
- 三 青少年の育成 スポーツに関し優れた資質を有する青少年の育成、競技力の向上等に必要環境の整備が行われること。
- 四 スポーツ環境の整備 県民が身近にスポーツに親しむとともに、スポーツにおける競技力の向上、プロスポーツ活動の支援等が図られるよう、スポーツ施設（設備を含む。以下同じ。）の設置その他スポーツ環境の整備が行われること。

五 障害者の支援 障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じて必要な支援が行われること。

六 生涯スポーツの振興 県民が生涯にわたって、その関心、適性等に応じて、スポーツができるよう、市町村と連携して、スポーツ団体の活動の支援その他地域における生涯スポーツの振興が図られること。

(県の責務)

**第三条** 県は、前条の基本理念に基づき、スポーツの振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

2 県は、市町村及びスポーツ団体が行うスポーツの振興に関する取組、県民が行うスポーツ活動に対し、情報の提供、助言その他の必要な支援を行うものとする。

(スポーツ団体の責務)

**第四条** スポーツ団体は、スポーツの振興に主体的に取り組むとともに、県が実施するスポーツの振興に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(県民の役割)

**第五条** 県民は、スポーツの持つ意義について理解を深めるとともに、自主的にスポーツ活動に参加することにより、体力の向上及び健康の保持増進に努めるものとする。

(拠点施設の設置等)

**第六条** 県は、第二条の基本理念を実現するため、スポーツ振興の拠点となるスポーツ施設の設置及び管理、その運用の改善、当該スポーツ施設への指導者の配置その他必要な施策を講ずるものとする。

(施設整備の方針)

**第七条** 県は、国民体育大会、プロスポーツ等の大規模なスポーツ大会の会場及び全県的なスポーツ活動の交流の場として、県有スポーツ施設の整備を行うものとする。

2 県は、市町村と連携し、各競技ごとに拠点となるスポーツ施設の整備を行うものとする。

(基本計画)

**第八条** 知事は、スポーツ施設（学校における体育のための施設を除く。）の設置及び管理に関する基本計画を定めるものとする。

2 知事は、前項の基本計画の作成、変更及び実施に当たっては、教育の観点から、教育委員会に対して必要な意見を求めるものとする。

3 第一項の基本計画については、群馬県行政に係る基本計画の議決等に関する条例（平成二十

## 第4章 資料編

年群馬県条例第二十一号) 第二条に定める基本計画とみなして当該条例の規定を適用する。

(指導者の養成等)

**第九条** 知事は、優れたスポーツ選手を育成し、その競技力の向上を図るため、スポーツ団体と協力して、指導者の確保、計画的な養成及び資質の向上その他の必要な施策の実施に努めるものとする。

2 前項の施策の実施に当たっては、教育委員会が行う競技力向上のための施策との連携に留意するものとする。

(顕彰)

**第十条** 知事は、スポーツで顕著な成果を収めた者及びスポーツの振興に寄与した者の顕彰を行うものとする。

2 顕彰に当たっては、実績を重視し、地道な努力が報われるよう配慮するものとする。

(財政上の措置)

**第十一条** 県は、スポーツの振興に関する施策を推進するために必要な財政上の措置を講ずるものとする。

### 附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十五年四月一日から施行する。

(検討)

2 知事は、この条例の施行後三年を経過するごとに、この条例の実施状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な見直しを行うものとする。



## 4 「スポーツ県群馬」宣言

体育・スポーツは、県民生活にとって今や欠くことのできないものであり、豊かな人間性を形成する上でも、きわめて重要な役割をもっている。

とりわけ、近年における社会経済の急激な変化の中でそこなわれつつある県民の健康をとりもどし、ゆがめられがちな青少年の心身の健やかな成長を助ける上でもその振興が切実に望まれている。

時あたかも、昭和58年に本県で国民体育大会が開催されようとしているこの好機に、県民の体育・スポーツに対する意識を高揚し、ひとりひとりが日常生活の中で進んでスポーツに参加し、健康で明るい活力ある生活ができるようその条件づくりに県を挙げて取り組み県民のスポーツ活動を推進することを誓うものである。

よって本議会は、ここに「スポーツ県群馬」を宣言することを決議する。

昭和53年6月19日

群馬県議会

## 5 競技別拠点スポーツ施設一覧

群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画（平成26年3月策定）から

NO	競技名	区分	競技別拠点スポーツ施設名
1	スケート	県有 市有	伊香保リンク（スピード、ショートトラック） アイスアリーナ（フィギュア、ショートトラック） 桐生スケートセンター（ショートトラック）
2	アイスホッケー	県有 民間	総合スポーツセンター伊香保リンク ニューサンピアアイスアリーナ
3	スキー	村有 民間	尾瀬ほたか高原スポーツパーククロスカントリーコース、片品シャンツェ（ジャンプ） 尾瀬岩鞍アルペンコース
4	陸上競技	県有	敷島公園陸上競技場、ふれあいスポーツプラザ
5	水泳	県有 市有	敷島公園水泳場、ゆうあいピック記念温水プール ふれあいスポーツプラザ 高崎市浜川プール
6	サッカー	県有 市有 市有 市有	敷島公園サッカー・ラグビー場、敷島公園陸上競技場 前橋総合運動公園陸上競技場 伊勢崎あずまサッカースタジアム 太田市運動公園サッカー・ラグビー場
7	テニス	県有 市有	総合スポーツセンターテニスコート 前橋総合運動公園テニスコート
8	ソフトテニス	県有 市有	総合スポーツセンターテニスコート 高崎市上並榎テニスコート
9	ボート	その他	館林市城沼
10	ホッケー	町有	みなかみ町月夜野緑地施設内運動広場
11	ボクシング	県有 市有	総合スポーツセンターサブアリーナ 安中市スポーツセンター総合体育館
12	バレーボール	県有 市有	総合スポーツセンターぐんまアリーナ・サブアリーナ 伊勢崎市民体育館・第二市民体育館
13	体操	県有 市有	総合スポーツセンターぐんまアリーナ 前橋市民体育館
14	バスケットボール	県有 市有	総合スポーツセンターぐんまアリーナ 高崎市浜川体育館、桐生市民体育館
15	レスリング	市有	館林市城沼総合体育館
16	セーリング	その他	渡良瀬遊水池
17	ウェイトリフティング	県有 市有	総合スポーツセンターぐんま武道館 前橋市市民体育館
18	ハンドボール	市有	富岡市北部運動公園市民体育館
19	自転車	市民 民間	グリーンドーム前橋（トラック） 群馬サイクルスポーツセンター（ロード）

NO	競技名	区分	競技別拠点スポーツ施設名
20	卓球	県有 市有	総合スポーツセンターぐんまアリーナ ふれあいスポーツプラザ 前橋市民体育館、高崎市浜川体育館
21	野球	県有 市有 市有	敷島公園野球場 前橋市総合運動公園市民球場、高崎市城南球場 桐生球場、太田市運動公園野球場、伊勢崎市野球場 藤岡市民球場
22	相撲	市有	桐生相撲道場
23	馬術	県有	群馬県馬事公苑
24	フェンシング	市有	沼田市民体育館
25	柔道	県有 市有	総合スポーツセンターぐんま武道館 太田市運動公園武道館
26	ソフトボール	市有	伊勢崎市ソフトボール場
27	バドミントン	県有 市有	総合スポーツセンターぐんまアリーナ 太田市運動公園市民体育館、伊勢崎市民体育館
28	弓道	県有	総合スポーツセンターぐんま武道館弓道場
29	ライフル射撃	県有	群馬県ライフル射撃場
30	剣道	県有	総合スポーツセンターぐんま武道館
31	ラグビー	県有 市有	敷島公園サッカー・ラグビー場 高崎市浜川競技場、太田市運動公園陸上競技場
32	山岳	新設 民間	リード クライミングジム・ウォールストリート
33	カヌー	その他 市有	渡良瀬遊水池（スプリント） みなかみ町矢瀬親水公園上流（スラローム、ワイルドウォーター）
34	アーチェリー	県有 市有	総合スポーツセンター仮設アーチェリー場 ふれあいスポーツプラザ
35	空手道	県有	総合スポーツセンターぐんま武道館
36	銃剣道	町有	玉村町社会体育館
37	クレール射撃	県有 民間	群馬県クレール射撃場 群馬ジャイアント射撃場
38	なぎなた	県有	総合スポーツセンターぐんま武道館
39	ボウリング	民間	パークレーン高崎
40	ゴルフ	—	主要な活動拠点が特定できないため、選定しない。